

福岡市アーチェリー協会

【設立年月日】

1976（昭51）年12月
2団体、47名の会員で発足

【加盟年月日】

1978（昭53）年 5月

【歴代会長】

1978（昭53）年 高山 久生
1999（平11）年 川鍋 寅政
2003（平15）年～ 湯村 重人

【歴代理事長】

1978（昭53）年 大原 光男
1980（昭55）年 角 治助
1988（昭63）年 岡村 和昭
1997（平 9）年 川鍋 寅政
2003（平15）年～ 湯村 重人

【沿革】

体育協会加盟時、既に福岡市内の大学には複数のアーチェリー部が活動しており、その卒業生が社会人となり当協会会員として活動していました。

また、社会人のクラブが行っていた初心者教室等の活動により徐々に会員数も増え、1980（昭55）年にアーチェリーが国体の正式種目となってからは、当協会会員が県代表選手の主力として活躍しました。

アーチェリーは車椅子でも競技可能なスポーツとして盛んで、パラリンピックの正式競技種目になっています。福岡市でも古くから障がい者のクラブ活動が行われています。

【現在の活動】

現在、本協会には約40名の社会人会員が登録しており、アーチェリー愛好者として各種競技会等に参加しています。

体育協会加盟以前から主催してきた『福岡市アーチェリー選手権大会』は現在、市民総合スポーツ大会の一環となりましたが、学生、一般の区別無く競技会を通じて交流できる大会として定着しています。

また、『博多っ子杯』は、福岡市及びその近郊だけでなく県外からも広く参加者があり、障がい者、一般、学生の区別無く競技できる公認大会として親しまれています。

高校では柏陵高校にアーチェリー部があり全国でも古豪として知られています。2010（平22）年のインターハイでは同校女子部が準優勝するなど活躍しています。

各個人の体格や体力に見合った器具を使うことで他者と対等な立場で競技ができるのがアーチェリーの競技としての最大の特質であり、生涯スポーツ、障がい者のスポーツとしての可能性が豊かです。

少子化社会を迎えた今、いかにして草の根レベルで親しむことができる環境を作り、維持していくかが大きな課題となっています。

